入居者と私の観察日記
～小さな役割が大きな喜びに～

社会福祉法人　岳陽会
特別養護老人ホーム　岩本園
主任　　柳野　隼規
ケアスタッフ　望月　彩香

特別養護老人ホーム岩本園について

- 施設概要
- 開設:昭和61年4月1日
- 従来型多床室
- 定員:入居70名、短期入所10名
- 入居者平均年齢:86．9歳
- (年齢層　63歳～103歳)
- 平均介護度:4．03

令和5年7月現在

コロナ禍の影響・・・

- コロナ禍になり毎年恒例だった行事や、様々な行事が中止となってしまい、入居者の楽しみが減っていってしまった・・・。
- そんな中でも入居者と職員が一緒になり何かに取り組みたいと考えた。

プランター栽培

施設の恵まれた自然環境を生かし
プランター栽培を行う事に決定！

プランター栽培を行う事により職員と入居者のコミュニケーションが密となり、入居者にも日課や役割が出来、活気のある日々を過ごして頂けると考えた。

プランター栽培開始！！

- 予め入居者にはプランター活動についてアナウンスし、これからプランター栽培が始まると気持ちの面から作って頂く様に取り組んだ。
- 職員と入居者が一緒に苗を植えたり、種をまき日々の成長を共有出来るようにスタートした。

共通の目的と楽しみ

日々の水やり等を一緒に行う事により日々成長していく花や野菜を見て、職員も入居者も喜びや楽しみを共有する事が出来た。

しかし毎日多くの方が水やりが出来るわけではない為、皆と共有出来る様に観察日記を作ることとした。

観察日記

- 始めは職員主体で観察日記を記録していましたが、入居者からも観察日記に意欲的に関わりたいと思って下さる方が出てきた為、新たな役割として観察日記も行っていく事とした。

観察日記を作った事による効果

- 観察日記を作ったことにより、観察日記を見ながらのコミュニケーションが増え、共通の話題の為、より質の高いコミュニケーションが取れるようになった。
- 新たな役割が出来たことにより、日々プランター栽培に関わって頂ける方が増えた。

見えてきた課題

水やり、観察日記等の役割があってもADLによっては参加が難しい入居者も多くいる。

観察日記も見たい時に誰でも閲覧できる状態ではなかった。

上記により現在の成長度合いが分からないとの意見が出てきた。

課題に対しての取り組み①

- ADLに応じて参加者が偏ってしまうという事に対しては、外に出る事が難しい入居者もいる為、屋内でもプランター活動が出来るよう工夫をした。
- また居室からも楽しんで頂けるよう、臥床時間が長い方の居室ベランダにプランターを設置した。

課題に対しての取り組み②

- 観察日記を誰でも何時でも閲覧して頂けるように、コピーをし廊下に掲示するようにした。
- 今まではプランター活動に興味を持たなかった方も、廊下に掲示した観察日記を見て興味を持ち、プランター活動に参加して頂く事が出来た。

活動を通しての評価①

- プランター活動を始めてから、入居者からの発語も増え、共通の話題でのコミュニケーションが、入居者同士、対職員で活発に行われるようになった。
- 日々の水やりや観察日記を自分の日課・役割とする入居者が増え生活に活気が出た。

活動を通しての評価②

- 職員も意欲的に入居者と関わる姿勢が増え、達成感・やりがい・モチベーションアップに繋がるなど意欲の向上が見られた。
- 次は何を植えようか、何の行事をやろうか等、職員自ら今後の活動について積極的に考える姿勢が見られるようになった。

活動を通しての評価③

- 育ったトマトやナスなどの収穫を入居者主体で行うことで、日々の小さな役割から大きな喜びを感じていただく事が出来た。
- 収穫した野菜を栄養士と入居者で調理法を考え、食することで、達成感ややりがいを感じて頂く事が出来た。

今後の課題

- プランター活動は基本が屋外活動となる為、参加する入居者に偏りが生まれてしまい、全員との関わりが希薄となってしまった。
- 全職員の共通理解と活動の継続をしていく事の難しさを感じた。

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人岳陽会

特別養護老人ホーム岩本園